

1. 質的研究とはなにか

質的研究の意義

質的研究の限界を自覚する

質的研究の基本的特徴

質的研究の歴史

研究プロセスに関連づけた質的研究の紹介

近代の終わりにおける質的研究

2. 理論的立場（pp.22-）

質的研究のさまざまなアプローチ

主観的意味：象徴的相互作用論

社会的現実の構築：エスノメソドロジー

社会的・主観的現実の文化的枠づけ：構造主義的モデル

パラダイムの競合か、アプローチのトライアングレーションか

異なる立場に共通する特徴

3. テクストの構築と理解

テキストと現実

世界構築としてのテキスト：第1次と第2次の構築

テキストの中の世界構築：ミメシス

ライフヒストリーとナラティブとの関係におけるミメシス

4. プロセスと理論

研究が直線的プロセスをたどる場合

グラウンディド・セオリー法におけるプロセスの考え方

プロセスの直線性と循環性

世界のヴァージョンとしての研究プロセスによる理論

5. 研究設問

設問を刈り込む

関心領域の特定化と研究対象の限定

鍵概念の使用とアプローチのトライアングレーション

研究設問のタイプ

6. フィールドへの参入

質的研究の要請とアクセスの問題

開放的なフィールドに入るときの役割の定義

機関／施設へのアクセス

個人へのアクセス

未知性と既知性

7. サンプルング戦略

研究プロセスにおけるサンプルングの決定

サンプル構造の事前決定

理論的サンプルング：研究プロセス中でのサンプル構造の段階的確定

質的調査における一般原則としての段階的選択

段階的選択に関する最近のコンセプト

サンプルングの目標としての「広さ」と「深さ」

サンプル中の事例構成